令和５年度　普及情報誌

あぐりまにわ













美作県民局農林水産事業部
真庭農業普及指導センター

表紙の写真説明

真庭市スマート農業塾

最新のスマート農機に関する情報を提供し、作業の効率化を促進するため、普及指導センターは真庭市主催の「スマート農業塾」の開催を支援しました。

新庄・白ネギ・スクール

新庄村で白ねぎの新規栽培者を確保するため、「新庄・白ネギ・スクール」を開催しました。

空き園地の現地確認

継続的な新規就農者確保のため､関係機関と協力し、空き園地情報の整理を進めています。

真庭いきいき帰農塾

産地を支える多様な担い手を確保するため、真庭市が主催する「真庭いきいき帰農塾」を支援しています。

ソリダゴの出荷目合わせ会

蒜山花卉生産組合は、高原気候を活かして長期出荷されるソリダゴを生産しており､その市場評価も高く､高品質生産に取り組んでいます。

小学生が搾乳体験

蒜山地域の酪農業の生産振興を目的に、小学生に酪農業を身近に知ってもらうため、食育教育を実施しています。

目　　次

ページ

Ⅰ特集　高品質ぶどうの安定生産と次世代ぶどう産地づくり

【１】真庭市ぶどう産地の一層の発展に向けて活動しています・・・・・２

Ⅱ地域の動き

【２】就農希望者が安心して参入できる農地の確保を・・・・・・・・・３
【３】磨けば光る新規就農の卵たち・・・・・・・・・・・・・・・・・３
【４】モォ～っと酪農業を知ってください・・・・・・・・・・・・・・４
【５】専門家を活用した経営改善を支援しています・・・・・・・・・・４
【６】ソリダゴとともにタラスピ、グリーンフェザーが好感触・・・・・５
【７】新「まにわ南部」始動！・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５

Ⅲ技術の紹介

【８】仲間づくり交流会で意気投合・・・・・・・・・・・・・・・・・６
【９】管内の農家が協力して「りんご餅」を商品化　・・・・・・・・・６
【10】環境にやさしい肥料に変えてみませんか・・・・・・・・・・・・７
【11】バイオ液肥を活用して水稲の試験栽培に取り組みました・・・・・７
【12】白ねぎの病害虫について対策を検討しています・・・・・・・・・８
【13】効率的なモグラ捕獲実証を行いました・・・・・・・・・・・・・８
【14】夏秋トマトの裂果低減品種の実証を行いました・・・・・・・・・９
【15】「シャインマスカット」の果粒肥大効果を検討しました　・・・・・９

Ⅳ新規就農者の紹介

【16】はじめまして！よろしくお願いします　～新規就農者の紹介～・・10

Ⅴ受賞者の紹介

【17】祝！受賞！おめでとうございます・・・・・・・・・・・・・・・11

真庭農業普及指導センターでは、昨年度からのトップ重点課題を「高品質ぶどうの安定生産と次世代ぶどう産地づくり」とし、新規栽培者の確保･育成と高品質安定生産技術の普及を通じて、安定した産地づくりに取り組んでいます。同時に、「地域農業を支える意欲ある担い手の育成・支援」と「先進的技術の確立・普及と力強い産地の育成及び支援」を活動の二本柱として、新規就農者や経営感覚に優れた経営体の育成、マーケティング戦略等による儲かる農業や農産物のブランド力強化、農作物の安全・安心の確保について推進してきました。

【１】 真庭市ぶどう産地の一層の発展に向けて活動しています

真庭市のぶどう栽培は、生産者の高齢化が進む中で、新規栽培者の確保と育成、果実品質の向上、販売力の強化に取り組んでいます。

普及指導センターでは、管内ぶどう産地の一層の発展を目指し、昨年度からのトップ重点課題に取り組んでおり、その一部を以下に紹介します。

①担い手確保と育成に向けて

就農支援制度を活用した新規就農者の確保に加え、産地を支える多様な担い手を確保するため、真庭市主催の「真庭いきいき帰農塾」を支援しています。今年度はぶどうコースを受講した15人に対して指導を行い、栽培開始や部会加入を働きかけました。

また、蒜山地域の担い手確保・育成を目的に設置された研修用ハウスでは、若木の管理指導や真庭市南部で研修に取り組んでいる実務研修生を交えた講習会を開催し、研修体制の整備を支援しています。



真庭いきいき帰農塾での房作り指導

②品質向上

「ピオーネ」の着色不良の課題に対し、植物成長調整剤（アブサップ液剤）の着色向上効果を現地で実証しました。

実証の結果、園地によってばらつきはあったものの、着色向上効果が認められました。一度果実袋を外して処理する必要があることや、散布ムラによる着色ムラ、弱勢樹や着果過多の樹では効果が出にくい傾向がある等、使用上の注意が明らかとなりました。

今後は使用方法を含めて普及の可否を検討していく予定です。



成熟期果実品質調査
上段：無処理、下段：アブサップ液剤処理

③販売力強化

ＪＡ晴れの国岡山まにわぶどう部会は、「産地マーケティング育成事業」に取り組み、株式会社エムディプロビジョンの尾﨑一郎氏の協力を得て、まにわぶどうマーケティング戦略の検討を進めています。今年度は、戦略案作成のための推進会議や岡山市場視察、部会員の意見を聞き取る巡回を行いました。

普及指導センターは、引き続き販売力の強化に向けてマーケティング活動を支援していきます。



マーケティング推進会議

【２】 就農希望者が安心して参入できる農地の確保を

真庭地域でも就農希望者の相談が増えてきました。現在、ぶどうとトマトで就農支援制度を活用した受入を行っていますが、就農時に提供できる農地が確保されていないことが課題となっています。

このため、昨年度からＪＡ、市、中間管理機構、普及指導センターで、真庭市北房地区をモデルに、ぶどう園地の流動化が見込まれる２集落を選定し、将来の農地の作付け計画や新規就農者への農地貸付の意向を調査しました。

その結果、高齢化にともない、将来は農業をやめたい､または農地を手放したいという意向を持つ農家が存在することが分かり、これらの園地をマッピングすると、一定の規模の団地となることがわかりました。

今後、集落との協議を進め、貸し出し可能な農地を就農希望者へ情報提供できる仕組み作りに取り組んでいきます。



関係機関の遊休地調査



農地意向調査結果

【３】 磨けば光る新規就農の卵たち

真庭高校食農生産科の１年生35人と引率の教員２人は、真庭新農業経営者クラブ連絡協議会役員である馬場克典さんのぶどう栽培ほ場、（株）城北農産あいがもファーム、中国四国酪農大学校の３カ所を見学しました。

馬場さんのぶどう栽培ほ場では、経営概要を聞き、収穫体験を行いました。あいがもファームでは、ドローンによる防除の実演見学、自動運転トラクターの試乗、リモコン草刈機の操作などを体験しました。また、酪農大学校では、ジャージー牛と触れ合うなど、貴重な体験をしました。

普及指導センターでは、高校生が地域の先進的な農業経営者を訪問し、農業体験を通じて地域農業への理解を深め、将来の進路の参考として平成29年度からこの先進的農家訪問を実施しています。



ぶどうの収穫体験



ジャージー牛とのふれあい

【４】 モォ～っと酪農業を知ってください

蒜山酪農が事務局を担当する蒜山イキイキ楽酪協議会は、日本一のジャージー牛飼育頭数を誇る蒜山地域において、酪農業を盛り上げる活動をしています。

その一環として、活動の１つである「学校へイッテミルク」では、学校を訪れてジャージー子牛とのふれあいや等身大の模型を用いた模擬搾乳体験などを通じ、生徒に酪農業を身近に感じてもらう食育と地産地消を勧めています。今年度は真庭市２校、倉敷市４校を訪問しました。



子牛の心音を聞く体験

今年度から新たに始めた取組が「サロンで食べてミルク」です！この活動では地域へ出向き、「栄養素の宝庫」とされる牛乳を取り入れた健康的な料理を高齢者に紹介しています。今年度は真庭市内の２つのサロンを訪れ、「カッテージチーズ作り」や「乳和食の調理」を通じて、普段の食事では不足しがちな栄養素を手軽に摂取できることをアピールしました。



カッテージチーズを使ったデザート

蒜山地域のさらなる活性化のため、引き続き牛乳・乳製品の魅力を発信していきます。

【５】 専門家を活用した経営改善を支援しています

農業においては、栽培技術の向上だけでなく、経営の維持と発展も同様に重要です。

普及指導センターでは、農業者の相談内容に応じた専門家を招き、無料で個別指導を提供しています。真庭地域での令和元年度から４年度の11月までの派遣実績は延べ12件で、中小企業診断士、税理士、司法書士、社会保険労務士が派遣されています。相談内容は法人化の検討や手順、経営継承、税務相談、雇用者の労務管理や就業規則作成など幅広く対応しています。



パソコン簿記の体験研修

個別指導は和やかな雰囲気で行われ、専門家からしか得られない知識を提供しています。普及指導センターが手続きを行い、当日立ち会うことで、農業者にとって初対面の専門家でも、安心して相談できます。

「経営を改善したいが、知り合いの専門家がいない」、「どの専門家に聞けばいいか分からない」といったお悩みがある方は、是非ご活用ください。（専門家は会議の決定を経て派遣されます。）



熱心に税理士に相談

【６】 ソリダコとともにタラスピ、グリーンフェザーが好感触

蒜山花卉生産部会(17人)では、ソリダゴを中心に、りんどう、ひまわり、ラークスパーを含む20品目以上の花きを生産しています。特にソリダゴは施設と露地で、電照技術を駆使して６月から12月上旬まで出荷され、厳格な共同選花で高い評価を得ており、市場から多くの注文を受けています。

同時に、新たなニーズに対応する品目の栽培にも取り組み、グリーン色で自然を感じさせるトレンド品目のタラスピ（西洋ナズナ)、グリーンフェザー（ユーパトリウム）も生産しています。これらの品目は、令和２年度に導入後も継続的な試行錯誤を経て、ボリューム感のある高品質な切花を提供できるようになりました。市場評価も好調で、生産者の栽培意欲も高まっています。これらの品目を蒜山ブランド花きとしてさらに伸ばしていく予定です。。

部会では、生産量を拡大するために新たな生産者を求めています。



ソリダゴの収穫適期を確認



収穫期を迎えたタラスピ

【７】新「まにわ南部」始動！

真庭市南部で小ぎくを中心に生産する「久世花き生産組合」と、クレマチスやオミナエシを中心に生産する「勝山花き生産組合」が令和５年３月に合併し、「ＪＡ晴れの国岡山まにわ南部花き生産組合」として新たに発足しました。

この組合は、各品目においては県内有数の産地であり、特にクレマチスは全国的な注目を浴びている生産地です。合併により、会員相互の技術研鑽が行われ、部会活動の活性化や生産量の向上を図ることができるよう支援していきます。

今年度の活動として、７月には現地講習会を久世の小ぎくと勝山のオミナエシほ場で行い、組合員相互の交流を図りました。「久世でオミナエシを作ってみたい」という声や「共通品目としてひまわりを作ろう」という新たな生産への意見も出て、次年度に向けた準備が進められています。

合併を契機に、「広域化を生かした生産強化」への意欲が生産者の間で高まり、新たなスタートとなる“新「まにわ南部」”が始動しています。



オミナエシほ場での講習会



交流が深まる現地講習会

【８】仲間づくり交流会で意気投合

６次産業化に取り組む農業者から「互いに知り合う機会が少なく、意見交換をしたい」との声を受けて、美作県民局管内の農業者を対象に「仲間づくり交流会」を行いました。

第１回交流会は、販売現場を視察することで今後の改善につなげようと、10月24日、真庭あぐりガーデンで開催し、17人が参加しました。施設や直売所を見学した後、お互いの取り組みについて意見交換を行いました。

第２回交流会は、販売推進のための手法を学ぶ事を目的に11月14日、鏡野町物産館夢広場で開催し、11人が参加しました。講師からインスタグラムの特徴や設定方法についての指導がありました。「まずは投稿頻度をあげましょう」という講師のアドバイスを受け、参加者はお互いのインスタグラムをフォローし合うなど積極的なコミュニケーションが生まれました。

今後も普及指導センターでは農業者間の相互交流を支援し、６次産業化の促進に寄与していきます。



話が尽きない意見交換会



インスタグラム講習会

【９】管内の農家が協力して「りんご餅」を商品化

中和地域でりんごを生産する「山崎りんごファーム」と、蒜山地域で自家生産の餅米を原材料に餅加工を行う「蒜山もちもち村」が、協力してりんご餅の商品化に取り組んでいます。

商品化のきっかけは、お互いが新しい加工品を検討していた時期に、令和４年度冬に開催された研修会で出会ったことから生まれました。普及指導センターの提案で「令和５年度おかやま型６次化活動支援事業」を活用し、りんご餅の商品化がスタートしました。

10月にりんごが収穫されると同時に試作を開始し、りんごコンポートの水分量や甘さ、餅のやわらかさなどを繰り返し調整し、商品化しました。

りんご餅は、主に道の駅風の家や真庭あぐりガーデン、そして各種イベントでの対面販売が予定されています。これにより、地域の特産品を活かした新たな商品が地元や観光客に提供されることとなります。



試行錯誤の末に完成した「りんご餅」



大ぶりのりんごコンポート入り

【10】環境にやさしい肥料に変えてみませんか

近年、環境負荷軽減のために、環境に優しい農業への取組が求められています。具体的な取組としては、化学肥料や化学農薬の低減、プラスチック被覆殻流出防止対策等があります。特に肥料殻流出対策と省力化を組み合わせた「グリーンな栽培体系への転換サポート」事業に取り組んだ新庄村での活動を紹介します。

内容は、慣行のプラスチック被覆に代わる新しい緩効性肥料「UF入り化成200早生用」を側条施肥機で田植え同時施用する取組で、収量性と肥料コスト、作業コストについて調査しました。その結果、収量は慣行区が446kg/10aに対して、実証区は527kg/10aと高く、肥料コストは実証区が約４割削減できました。また側条施肥により動力散布機での基肥散布時間（８分/10a）が削減されました。

今後プラスチック被覆に変わる新しい緩効性肥料として現場での活用を図ります。



動力散布機による基肥施用



ウレアホルム肥料の現地検討会

【11】バイオ液肥を活用して水稲の試験栽培に取り組みました

真庭市では、持続可能な循環型農業を推進しており、生ゴミ・し尿・浄化槽汚泥をメタン発酵して資源化したバイオ液肥の活用に取り組んでいます。

そこで、従来のバイオ液肥を約10倍に濃縮した「濃縮バイオ液肥」を活用した水稲（きぬむすめ）の栽培試験を行いました。試験ほ場では田植前に10ａ当たり400ℓの濃縮バイオ液肥を散布し、慣行栽培との収量性と肥料コストを比較しました。試験区では前半の生育が遅れたため、幼穂形成期に硫安を10ａ当たり10kg追肥しましたが、慣行区に比べて約７％の減収となりました。しかしながら、化学肥料の使用量が低減され、かなりの肥料コスト削減につながりました。（バイオ液肥の価格は検討中ですが、慣行の約３分の１に抑えられる見込みです）

令和６年度には、真庭市で新たなバイオ液肥濃縮施設が完成し、高濃度のバイオ液肥の供給が始まります。今後もバイオ液肥を用いた水稲の安定栽培を支援します。



田植え前の液肥散布作業



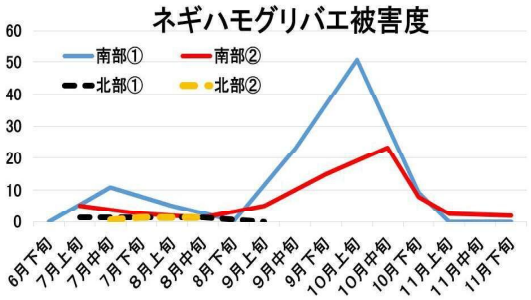
現地検討会

【12】白ねぎの病害虫について対策を検討しています

近年、白ねぎのネギハモグリバエや白斑症状による被害が増えています。

ネギハモグリバエについては、従来種よりも食害痕が深刻な新しいタイプが管内全域に発生しています。そこで、発生消長を調査した結果、７月と10月に発生ピークがあるため、８月下旬から９月にかけて重点的防除が必要であることが判明しました。

また、夜温が下がる９月頃から、白い斑点が葉に発生する白斑症状は、中心葉から３枚目までの葉に広がると商品価値が低下します。病害か生理障害かはまだ解明されておらず、県下全域で調査しています。現時点では、白斑症状が多いほ場は、葉枯病(病害)も発生している場合が多い傾向にありますが、その関連性はまだ明確にはなっておらず、今後も調査を継続していきます。



ネギハモグリバエ被害調査結果



白斑症状と葉枯病の症状

【13】効率的なモグラ捕獲実証を行いました

真庭地域では近年、モグラによる農作物への被害（根域に空隙を作るだけでなく、モグラ道をネズミが利用し、根を食害する）が増加しています。そこで普及指導センターは、白ねぎほ場において、効率的な捕獲手法を実証し、その普及性を検証しました。

前年にモグラがほ場内に侵入し、白ねぎに欠株が発生したほ場など管内４か所で実証したところ、７～11月で計21匹のモグラを捕獲することができました。ポイントは、①イボ竹等を用いて利用頻度の高い本道を特定すること、②筒罠を本道に固定し、木杭等で迂回や潜り込みを防ぐこと、③筒罠内にひもを設置して、捕獲の有無の確認を容易にすることです。実証農家にアンケートしたところ、効果を感じており、今後も継続して設置するとの声が集まりました。

この対策を行う場合、２週間程度捕獲できなければ場所を移動させること、捕まったモグラを筒罠内に放置すると悪臭を発するため、定期的に確認することが重要です。


筒罠の設置


捕獲したモグラ

【14】夏秋トマトの裂果低減品種の実証を行いました

真庭地域北部の主要品目である夏秋トマトは、梅雨明け以降に放射状裂果が増加し、問題となっています。

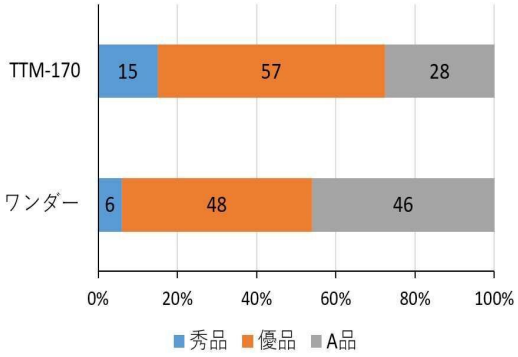
裂果は窒素過剰によるコルク層の発達や幼果の日焼け、急激な吸水等により発生する生理障害です。そこで、従来の桃太郎品種よりも裂果が少ないとされる「TTM-170」の生育及び収量性を調査しました。

調査の結果、「TTM-170」は慣行品種の「桃太郎ワンダー」と比較して放射状裂果の発生程度が小さく、秀品率も高いことが分かりました。また、葉かびやすすかび病の発生程度も低いことが確認されました。

ただし、「TTM-170」は小果により出荷できない果実が一定数見られました。今後は果実肥大を促進する栽培方法などを検討し、産地の適応性を確認する予定です。



「TTM-170」の果実



各区の等級割合（%）

【15】「シャインマスカット」の果粒肥大効果を検討しました

近年栽培面積が増加している「シャインマスカット」は、大粒な果実が求められていますが、果粒肥大不足が課題となっています。このため、開花後の副梢管理回数を増やすことで果粒肥大を促進する実証を真庭市北房地区と蒜山地区の２つの園で行いました。

実証は、副梢管理を慣行の満開２週間後、満開４週間後、果粒軟化後の合計３回行う対照区と、満開直後と果粒軟化後に２回追加し、合計６回行う処理区を設け、成熟期に果実品質を調査しました。

調査の結果、両園とも処理区の果粒重が平均で２～３ｇ優れていました。今回の実証樹はいずれも副梢発生が旺盛なやや強樹勢であったため、副梢管理の回数を増やすことで果粒肥大が促進されたと考えられます。

今後は調査結果を生産者に周知し、次年度の栽培管理指導に活用します。



成熟期調査（真庭市北房地区）
上段:対照区　下段:処理区

成熟期の果実品質調査結果

地区	区	果房重 (g)	果粒重 (g)	果粒数	糖度 (Brix°)
真庭市北房	処理区	694.4	18.1	37.4	19.2
	対照区	707.6	15.7	43.8	18.8
真庭市蒜山	処理区	700.0	15.7	44.0	19.1
	対照区	587.6	12.7	45.6	19.1

【16】はじめまして！よろしくお願いします～新規就農者の紹介～

赤岩　優　さん



エリア：真庭市落合地区
作　目：露地野菜

就農のきっかけは、前職で農業に携わりがあり、興味とやりがい感じていたところ、親戚から農地と農機具を譲っていただける話がタイミング良くあり、就農しました。夏秋なすと白ねぎを中心に、その他季節ごとの野菜を栽培し出荷しています。今後少しずつ規模拡大と生産量を増やしていきたいと思っています。



竹内　和晃　さん

エリア：真庭市落合地区
作　目：露地野菜

やりがいを感じることができる農業に惹かれ、野菜作りを始めました。今年は、キュウリ20aの経営でしたが、来年からは、ハウスを導入して出荷期間の延長とアマナガトウガラシ等の野菜複合経営で年間を通じて出荷できる生産体制を試みます。将来的にはぶどうも取り入れた安定経営を図っていきたいと思っています。



金利　卓　さん

エリア：真庭市落合地区
作　目：露地野菜

自分の力で進めることができる農業に惹かれ就農しました。キュウリ20ａと春菊２aを栽培していますが、今後はキュウリの規模を増やしたり、バナナ栽培にも挑戦したいと思っています。無知でまだまだこれからですが、健康面の管理に留意しながら頑張りたいと思っています。

【17】祝！受賞！おめでとうございます

《第56回岡山県農林漁業功労者》
農林水産部長表彰（畜産部門）
新極　達夫　さん（真庭市）



真庭地域の優良子牛を肥育素牛として導入し、地元繁殖農家の経営発展に貢献する一方、自らも繁殖雌牛を飼育して、繁殖肥育一貫経営に取り組んでこられました。
パソコンを活用したきめ細かい飼育管理を行い、肥育技術のレベルアップを実践されており、県下トップクラスの和牛肥育技術を確立されています。

《令和５年度全国優良畜産経営管理技術発表会》
最優秀賞（農林水産大臣長賞他）
丸山　昭博　さん（真庭市）



平成10年度に就農後、平成14年度にジャージー酪農では県内初となるフリーバーン牛舎を整備され、省力的で低コストな経営は地域の先進的なモデルとなっています。
蒜山地域の酪農経営の安定と後継者育成に尽力するなど、地域のリーダーとして、ジャージー酪農の振興に大きく貢献されています。

《令和５年度岡山県花卉共進会》
中央会長賞
富岡　紀明　さん（真庭市）



７月28日の審査会で小ぎく「うきぐも」で３位に入賞されました。ご夫婦で力を合わせ、施設と露地栽培を組合せた多品目生産をされており、日々の観察と経験に裏付けされた緻密な栽培管理の徹底によって、安定した高品質な花き生産を実践されています。

《令和５年度岡山県花卉共進会》
岡山県花卉生産協会会長賞
亀山　恵治　さん（真庭市）



７月28日の審査会で八重咲ひまわり「レモンエクレア」で入賞されました。生育に合わせた的確な肥培管理と温度管理を行い、高品質生産に取り組んでおられます。施設と露地栽培を組合せて多品目生産に取り組まれるだけでなく、新しい品目を率先して取り入れるなど、意欲的に活躍されています。

【問い合わせ先】

《岡山県美作県民局　農林水産事業部》

〇真庭農業普及指導センター

〒717-8501　岡山県真庭市勝山591

担い手・農産班　TEL 0867-44-7582

園　　芸　　班　TEL 0867-44-7583・7585

FAX 0867-44-4046

Eメール：maniwa-fukyu@pref.okayama.lg.jp

ホームページ：https://www.pref.okayama.jp/soshiki/127/



Youtubeチャンネル「あぐりまにわ」☆チャンネル登録を☆

https://www.youtube.com/channel/UC4VOZ_6vjxDEqZcR-MCC6dg/featured



〇農畜産物生産課

〒717-8501　岡山県真庭市勝山591

畜産第二班　　TEL 0867-44-7564

FAX 0867-44-4754

〇美作広域農業普及指導センター

〒708-8506　岡山県津山市山下53

革新農業推進班　　TEL 0868-23-1496・1513

FAX 0868-23-5962

Eメール：tsuya-fukyu@pref.okayama.lg.jp